

住民説明会要旨

- 1 説明会 新処理施設等の整備に関する住民説明会
- 2 開催日時 令和5年2月25日（土）午後2時から午後3時45分まで
- 3 開催場所 弥栄市民センター
- 4 参加者 13人
- 5 事務局
石川隆明副管理者、佐藤正幸事務局長、吉田健総務管理課長、
菅原彰一関清掃センター所長、菊池弘総務管理課施設整備係長、
石川勝志総務管理課主任主事、
一般財団法人日本環境衛生センター4名（以下、日環センター）

6 説明

- (1) 前回までの住民説明会の内容
- (2) 施設整備基本計画の策定
- (3) エネルギー回収型一般廃棄物処理施設の検討状況
- (4) マテリアルリサイクル推進施設整備の検討状況
- (5) 一般廃棄物最終処分場整備の検討状況

7 あいさつ

本日は8回目の新処理施設等の整備に関する住民説明会である。新処理施設等として、一つはエネルギー回収型一般廃棄物処理施設、焼却処理を中心とする施設である。併せて同一敷地に整備するマテリアルリサイクル推進施設である。そして一般廃棄物最終処分場である。以上のとおり2つのエリアで3つの施設の整備を計画している。

説明会はだまかに3段階で開催している。土地の所有者の皆様に対する説明会、そして候補地周辺の自治会の皆様を対象とした説明会、そして本日のどなたでもご参加いただける住民説明会である。施設整備の検討を進めるうえで、1度にすべての計画ができるものではないので、ひとつずつ少しずつではあるが案を作って意見を伺うというキャッチボールを皆様方と行いながらこれまでもやってきた。このキャッチボールしながら一緒に考えていくということが、より理解を深めていただくために欠くことのできない手法であると考え、このような進め方をしている。

本日は昨年度に施設整備基本計画をまとめた後の検討状況や今後のスケジュールについて説明させていただく。疑問に思うこと、不安に思うこと、お気づきのことがあればお寄せいただきたい。

8 説明内容

- (1) 前回までの住民説明会の内容
配布資料に沿って事務局が説明を行った。
- (2) 施設整備基本計画の策定
配布資料に沿って事務局が説明を行った。
- (3) エネルギー回収型一般廃棄物処理施設の検討状況
配布資料に沿って事務局が説明を行った。
- (4) マテリアルリサイクル推進施設整備の検討状況
配布資料に沿って事務局が説明を行った。
- (5) 一般廃棄物最終処分場整備の検討状況
配布資料に沿って事務局が説明を行った。

9 質疑応答

【エネルギー回収型一般廃棄物処理施設について】

参加者 配布資料の7ページの付加的に導入する処理方式の生ごみの堆肥化設備の設置については、新たに出てきたことだと思う。主婦の立場から言うと、なぜこれが十分検討されないのかと思っていた。大体家庭から出るごみの4分の1は生ごみだと言われており、どこの自治体でも生ごみの処理について非常に苦慮されているし、できるだけリサイクルして新たなものに変えていくことが、どこの自治体でも検討されていると思う。今回は、当初は家庭のごみではなく事業所のごみに限定し、それから始めるということで大いに期待している。ただし、住民の資源に対する意識、啓発に課題があり、家庭からの出るごみのリサイクルについて真剣になって進めていく必要があると思っている。大変困難な検討だと思うが非常に有効な方針だと思う。そのような計画を考えられているのか。また、まずは事業所の生ごみの回収を行うということだが、どういう事業所を対象にして考えられているのか。

事務局 ごみの処理方式については最初から焼却方式と決めて進めてきたものではなく、焼却方式のほかに堆肥化、燃料化、ガス化など様々な方法を横並びで検討を進めてきた。結論は焼却方式が最も経済的で安定的に処理できる方式であるとして焼却方式とした。ただし、啓発という意味合いから焼却方式以外の方式で資源化率の高い方式を付加的に導入できないかを並行して検討してきた。その結果、堆肥化を小規模に付加的に導入してみようという結論に辿り着いた。まずは事業所から出るごみを対象にやってみようと思っている。具体的に対象とする事業者はまだこれからの検討であるが、まとまって生ごみが出るところと考えると、例えば給食センターといったところを一つのターゲットにして検討していく必要がある

あると今は考えている。住民の皆さんの意識をどのように高めていけるかが大きな課題であると考えており、その一つの足掛かりになればと思う。

参加者 焼却場の日量の処理量が21トンという計画であるが、生ごみを堆肥化した場合にはこの中の一部が堆肥化の方に回るのか。事業ごみの堆肥化も一部試みるということだが、事業ごみだと一般廃棄物と産業廃棄物とあると思うが、その中で例えば事業ごみの中の個人で使用したような分の生ごみが対象になるのか。または事業の過程で出る生ごみまでやるのか。

事務局 先ほどの説明で申し上げた21トンという処理量は、マテリアルリサイクル施設の処理量であった。焼却施設は日量106トンという計画である。いずれも一般廃棄物の処理施設であり、産業廃棄物は対象にしていない。付加的に導入する生ごみの堆肥化については一般廃棄物を対象とするため、一部の事業系一般廃棄物について定量を回せないかと考えていた。規模については付加的な導入であるため、何トンといった大きな規模を今は想定していない。

事務局 生ごみをリサイクルすることで住民の皆様にもリサイクルの意識を高めて、各家庭でそのような取組を行ってもらうことにより、将来的に焼却する生ごみの減量化に繋がっていくのではないかと趣旨である。

参加者 新リサイクル施設の関係で蛍光灯なども回収するとあった。先の周辺自治会説明会では、それについては回収するが処分は業者に委託するという説明であったと思うが、それは変わっていないか。

事務局 先の周辺自治会説明会の説明から変わりはない。今回新規に「(仮称)危険・有害ごみ」という区分を設けることを検討しているが、これを新処理施設で処理するというのではなく、収集を行って専門業者に引き渡して処理をしていただくことを想定している。

参加者 周辺自治会説明会では説明されているが、同じ弥栄であるのでこの弥栄市民センターでやる説明会でも同じように説明してほしい。周辺自治会以外の弥栄1区から5区までの行政区の人も関心がないわけではない。そこは考えてほしい。

事務局 本日は、先日の周辺自治会説明会での説明に加え、どなたでも参加できる住民説明会ということで最終処分場の説明もさせていただいたため、時間の関係上、周辺自治会説明会と同じ内容の説明ではなかったことは申し訳なかった。これからはそうした部分も十分考えながら説明したい。

参加者 焼却場が建設されると煙や交通量など、この地域が一関市の嫌な形を引き受けることになる。それを引き受けるにあたって地元として受け入れられる、納得できるような事業を今後して欲しいと思う。その中身として、勉強不足であり知り

たいのは、今までのごみの総排出量、エネルギー回収型一般廃棄物処理施設の基本計画には令和元年度で3万1,319トンと記載されているが、相対的にごみの量は減っているのか、増えているのか。各年度の数字が分かれば教えてほしい。それからこの事業を10万人規模の一関市が100億円という大金をかけてやるわけだが、今後、ただ事業をやるというのではなく、この事業をきっかけにして、ごみの減量化や生ごみを肥料にして販売してお金を得ることによって経費を圧縮するような形を考えてもらいたい。それから売電については東北電力に売ると安いので、地元へ売ったほうが良いのではないかと思う。これには知識や膨大な力が必要と思うが、できるかできないかは別としてもそのような事業の考え方をしてほしい。100億円をかけてただごみを燃やして灰にし、そこから利益が何も生まれてこないような施設ではうまくないのではないかと思う。そのような利益的な考え方があるのかどうかを伺いたい。

事務局 利益という話であるが、まず一番大きいのは焼却による熱エネルギーで発電を行い、施設で使う電気は自前で賄うため買わなくて済むという点がある。そして残りの電気は売電を行う。発電を行うために熱エネルギーを使うが、発電した後も熱エネルギーが残るので、温水としてそれも活用しようという組立にしている。組合の施設は、一関市と平泉町からの分担金という住民の皆様の負担で運営しているという中で、ランニングコストの軽減が図られることが負担の軽減にも繋がっていくものと思う。焼却施設でのごみ処理量は令和3度の実績ではおよそ2万9千トンである。全体では減少傾向である。ただし個人当たりでは、現在はコロナ禍での巣ごもりなどの影響もあり、減ってない状況である。

日環センター 補足である。堆肥化について今回は小規模に普及啓発という視点で進める考えであるが、やむを得ないと考える。廃棄物分野に長年携わり、世界中で堆肥化施設を見て回っているが、実態としては集めれば集めるほど混入物が入ってきてコンポストは難しくなる。タイでも農業国なので肥料は使うということでやっていたが、そのようなことがあり止めて焼却施設に切り換えている。スクールコンポストという形で混入物が少ない形でやろうとしている。堆肥を売って農業利用している国には私はまだ行き当たっていない。北京のコンポスト施設も見たがやはり農業利用までは難しく、公園や園芸などで使っているのが実態である。電気は安定した形で、汎用で一番使い勝手がよい。意見具申しているのは施設内で使う電気を少なくすることにより、外部に売れる電気を多くすること。電気も発電効率をもっと上げられないか、メーカーに問い合わせたが、仙台以北の送電網が決して強い状況とは言えず、24時間安定して引き取ってもらえるという状況

でもない。努力は続けるが制約条件がかなりあるという状況である。電力会社に売らずに自分たちで電力会社を設立して独自にという考え方もあるが、私どももいろいろと調査と勉強をしているところである。

参加者 一関市単体であればそのような形と思う。例えばこれを岩手県全体でまとめて集めるような施設をつくってやるような形にすることにより、いろんなアイデアが出てくるのではないか。1市町村でできないのであれば、1県でできるような方向にもっていけば、多少のコストはかかるがやらないよりはよいのではないかと思う。二酸化炭素の排出を考えた場合にはそれでもよいのではないかと思う。それからこの事業をやるにあたって、ごみの減量をどうやって行っていくかという具体策をもう少し真剣になって考えて欲しい。これは役所自体が考えるのではなく住民と一緒にいい方向に進むという形をとって欲しいと思う。あとはせっかく建てるので、これを一関市の発展につながるような焼却炉にして欲しいというのは一つお願いである。ただ建てて、批判ばかりもらうような施設であればはっきり言っていない。立派な施設で何か光るものを作ってもらわないと、住民も納得いかないのではないかと思う。答えは不要である。

参加者 組合の事務は焼却施設と最終処分場の管理業務があると思う。それから斎苑の管理業務、介護保険に関する業務があると思う。その業務が主であると思うが、そのような理解でよいか。

事務局 組合は一部事務組合であり、一関市と平泉町でこの事業は共同で行うと合意した内容がごみ処理や斎苑や介護保険の事務になるため、行う業務の範囲はその範囲に限られる。

参加者 その範囲以上のこと、どこに建設するかはまだ決まっていないが、どこになったとしても国道などからの道路整備などは組合ではなく市の業務になる。だから説明会でも担当部署に伝えておくという回答しかできない。これから仮に弥栄の一ノ沢に新しいごみ処理施設ができるということについて住民の理解が得られれば、新処理施設まで行く道路と、大東と一関の清掃センターを1か所にするということであるので、東西の幹線道路のほか、南北の幹線道路をどうするかとなる。その道路を整備する。金成弥栄線という花泉に抜ける県道があるが、そこも危ないところであり、前から改良の要望をしているがなかなか実現しない。そのような整備をして最終的には三陸道の米山や登米までの整備を行えば、大東からでもこの中心を通って行ける。そうすると全部まとまってくるので、そこで大きな環状線でも整備したらどうかという考え方もある。

副管理者 交通ネットワークについては施設整備に伴い整備が必要となる部分と、市全

体のネットワークとして道路整備をどうするかという観点の両方があると思う。まずは施設整備に関わる部分の交通で支障になる部分はないか、必要な整備は何かについて今までも弥栄地区の皆さんからも話を受けていたので、今日の場には間に合わなかったが何が必要かを検討していた。国道284号の問題、取付道路の問題のほか、これは市全体の交通ネットワークの話になるが、県道金成弥栄については今までも岩手県には要望しており、来年から要望の位置づけを引き上げて取り組んでいきたいと思う。

参加者 ぜひお願いしたい。

余熱活用の関係で熱の供給距離は2 km以内という話があったが、直径か、半径か。

日環センター 考え方として直線距離であるため、半径で考えていただきたい。

参加者 設計上の煙突の高さは何メートルか。

事務局 エネルギー回収型一般廃棄物処理施設の整備基本計画で想定している煙突の高さは59メートルである。

参加者 脱塩設備とPM2.5の関係を説明願いたい。

日環センター 粒径の小さいダストの問題のことと思う。PM2.5はなかなか調査が進んでないが量は計れるようになってきた。調査した中ではゼロとは言わない極めて微量である。本日は資料の持ち合わせがないため数字をお示しできないが、空気中のPM2.5を調べたときに、排出由来を調べた中で占める割合も極めて少ないという結果が出ている。脱塩設備については、公害防止の話をしたときに排ガス中の硫黄酸化物や食べ物の中の硫黄分がSO_xと言って硫黄酸化物、水に溶ければ硫酸になる。それから塩素、これも塩とかが必要であるため排ガスの中に入っているが、水に溶けると塩酸になるため除去している。除去には石灰を使い、そうすると食塩ではないが塩ができる。それは灰の一部として薬品で固形化して流出しないようにして処理している。そのように問題がないように、溶出しないように処理して処分場に埋立する。

参加者 CO₂の排出量や温暖化などにも関連して、国民のごみ問題への意識レベルは高くなってきていると思うが、我々の生活ごみに対する知識は意外と不足している部分が結構あると思う。その点は人間の力で解決できる部分があると思うので、組合には住民への説明会などの形で、3年ぐらいかけて各地区において、或いは人が集まるときにとにかく説明するというのを併せて行ってほしい。ごみを減らすことにより、お金のかからない社会を後世に残したいと思っている。汚れたごみを出す人もいれば綺麗なごみを出す人もいる。それは知識をい

かに伝達するかである。プロジェクトチームでもよいので2、3人体制で住民説明するというものを行って欲しい。東磐井と西磐井というか元の一関市の地区とのごみの出し方に高低差がある。それは組合の力が足りない部分があるのではないかと思うので、そこは反省していただいて、一関はこのようにやっているとは他の市町村にも誇れるようなことをやって欲しい。必ずそういうプロジェクトチームを作って市民に説明して歩くということをやりたい。そして新しい焼却炉に向かってよい形のごみをよい形で焼却するという形をつくって欲しい。そういうことを徹底することが一番大切だと思うので、よろしくお願ひしたい。

事務局 一つご理解いただきたいところがある。先ほど組合の事務の話があったが、ごみの減量化については市町が主体として行っているが、組合は関係ないというスタンスではなく一緒にやっていくという思いであるので、そこについては組合と市町が一緒になって取り組むというスタンスで考えていきたいと思う。

参加者 我々は会場に入る前に名前を書かされて、発言前に氏名を言わされる。それに引き換え組合の皆さんは最初に簡単に紹介をいただいたが、配布資料にはっきりとどういう役職の誰が出席しているということぐらい書いていただくと、我々も誰が回答をくれたのかがわかって大変良いと思う。私が知りたいのは候補地を誰がどのように選んで一つに絞ったのか。これは弥栄も千厩もそうであるが、そのときに地元との合意形成がなかったというのが弥栄でも千厩で問題になっているところである。誰がどのような意見を出して、誰が決めたのかを知りたい。

事務局 新処理施設、新最終処分場ともこれから何十年と使用する施設であるので、まずどのような施設であればいいのかという基本的な考えを設けた。その基本的な考えに基づいてどのような施設であればいいか、そのためにはどこであればいいかという順番で行った。その中で客観的に場所を選定するために、これまでの経過から狐禅寺を除く市町内全域を対象にどこがよいか、例えば災害が起きやすいところ、急傾斜地になっている、浸水区域になっているといったリスクがあるところを除外する消去法で一旦絞った。そのあとは評価項目を設定して絞り込み作業を3段階に分けて行った。大学の先生方に絞り込みをしていただき4箇所を選定していただいた。4箇所を選定後から地元への説明会を開催している。こういう手続きを経てこの地域は候補地の一つとなったという説明を新処理施設、新最終処分場ともにそれぞれ4箇所すべてで説明会などを行いながら、どのような方法で絞り込んでいったらよいか、説明会の中で意見を伺ってきた。そして項目出しを行いそれぞれ評価した中で1箇所を候補地とさせていただいた。

参加者 私はその候補地を絞ったときに、どのような組織で誰が入って決めたのかとい

うことをお聞きしている。

事務局 4箇所選定するまでは大学の先生方に候補地選定委員会の委員としてお願いして、検討いただいた結果、4箇所を報告いただき、組合として4箇所を決定している。その後は一関市と平泉町、当組合の職員で施設整備検討委員会という組織を設け、その中で説明会をしながら絞り込みの項目を決め、1箇所の候補地の絞り込みを行い、最終的には組合の管理者副管理者の会議で決定をした。

参加者 ということは候補地を絞るときに地元の意見は入っていないということか。

事務局 絞り込みの際に、このような項目で絞り込みをしてはどうかということを説明会で説明させていただいて、こういう項目も入れて欲しいという意見もいただき、その項目を反映させて事務を進めてきた。説明会の中でやりとりをしながら進めきたと思っている。

参加者 大事な絞り込みのときに地元の意見が本当に反映されたのかという疑問をずっと持っていた。これが一番大事なところで、こういう大変なものをつくるときにはいかに地元との合意形成が大事かと。そこがきちんとなされたかどうかによって、これから先の進め方が変わってくるのだろうと思う。

事務局 候補地選定委員会と施設整備検討委員会の2つの組織を設置している。候補地選定委員会ですら4箇所の候補地を選定し、施設整備検討委員会で4箇所から1箇所への絞り込みを進めてきた。こちらのスライドがその評価項目で、上段が大学の先生方が選定作業をした際の整備候補地選定委員会での条件になる。自然公園地域や自然環境保全地域、危険地区や文化財があるところなどは基本的に第一段階で除外した。その後人口分布や土地造成の容易性、構造物等の部分、公共投資エリアからの回避など、これらの項目について評価し、絞り込みをした。上段の49項目により4箇所まで選定し、その4箇所について下段の施設整備検討委員会でどのような施設であればよいかという基本的な考え方、安定性に優れた安全な施設や環境に配慮した施設、そのような項目が一番満たされる場所はどこかということで評価項目を27項目設けて、これらの項目を各4箇所の候補地それぞれに当てはめて評価を行ったところ、ご覧のような評価結果になり、「弥栄字一ノ沢ほか」が最も適しているという判断をさせていただいた。

参加者 今説明のあった4箇所に絞ったときに、環境に配慮した施設という評価項目で弥栄だけに二重丸がついているが、ほかのところはどうだったのか。

事務局 この環境に配慮した施設という項目の中では評価項目が様々あり、弥栄字一ノ沢ほかについては評価される項目があり、他の3箇所については評価される項目がなかったことから、弥栄字一ノ沢ほかが一番良いという評価で、ほかの3箇所

は優劣がないといった評価になっている。

10 担当課 総務管理課